

中学校 保健体育科（体育）

- ◇学年 第3学年
- ◇単元名 体育理論 「1. (ア) 文化としてのスポーツの意義 ウ. スポーツは、民族や国、人種や性、障がいの違いなどを超えて人々を結び付けていること」
- ◇本時の目標
- 【知識】
 パラリンピックの理念を理解するとともに、パラリンピアン成田真由美さん（1996年アトランタ大会から2008年北京大会まで4大会連続出場）を例に、スポーツが障がいの有無を超えて人々を結び付けていることを理解する。
- 【思考・判断】
 パラリンピックの理念と成田真由美さんの事例を結び付けて、スポーツが障がいの有無を超えて人々を結び付けていることを説明できるようにする。
- 【態度】
 ワークシートをまとめたり、グループで意見交換をしたりするなど、学習に自主的に取り組もうとする。
- ◇使用教材 JPC・パラリンピックサポートセンター『I'm POSSIBLE』（映像資料）
 スポーツ庁『オリンピック・パラリンピックに関する指導参考資料』（pp.60-61）
 スポーツ庁『オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料』

◇学習の流れ

	学習内容	学習活動	指導上の留意事項	評価規準（観点）
導入 5分		思い出に残っているオリンピックについて発表する（感動したことや自分のエピソードについて） パラリンピックについて知っていることをあげる パラリンピックのロゴを書く	○オリンピックについては知っているが、パラリンピックについてはあまり知らないことを認識させる	問いかけに対して積極的に発言している（態度）
展開① 15分	1. パラリンピックが共生社会（健常者・障がい者という区別がなく、誰でも生き生きと生活していくことができる社会）を実現するために開催されていることを理解する	『I'm POSSIBLE』の映像教材（リオパラリンピック大会ダイジェスト）を見ながらパラリンピックの目的を考えて発表する（3分34秒） 答え合わせを行う もう一度動画を流して答えを確認する（3分34秒）	○もし答えが思いつかなければ映像を見た感想でもよいと指示する ○パラリンピックがももとは障がい者のリハビリのために始められたが、いまでは共生社会の実現のために行われるようになっていることを強調する	

